

再評価

【ダム事業】

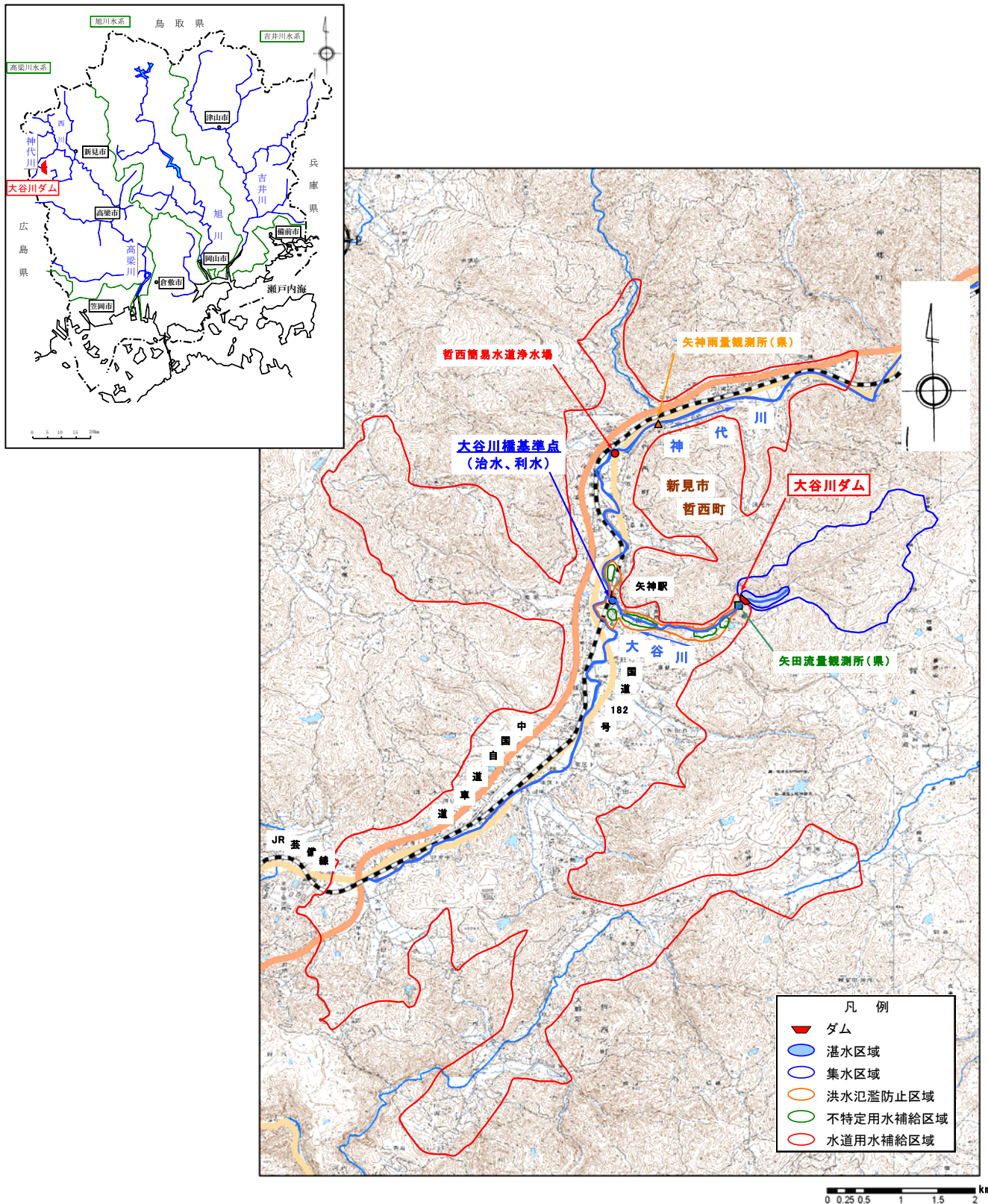
(補助事業)

➤ 大谷川生活貯水池整備事業	1
➤ 庄原生活貯水池整備事業	4
➤ 椋川ダム建設事業	7
➤ 春遠生活貯水池整備事業	10

事業名 (箇所名)	大谷川生活貯水池整備事業		担当課	水管理・国土保全局治水課		事業 主体	岡山県			
実施箇所	岡山県新見市									
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
事業諸元	重力式コンクリートダム、ダム高40.0m、堤体積34千m ³ 、総貯水容量422千m ³									
事業期間	平成14年度建設事業着手									
総事業費 (億円)	約59			残事業費(億円)	約48					
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 大谷川流域では、近年でも平成7年、平成10年に被害の大きな洪水が発生している。 主な洪水実績：S47.7：家屋全壊24戸、半壊14戸、床上浸水57戸、床下浸水533戸 主な洪水実績：S58.5：床下浸水2戸 ※土砂災害等も含む可能性がある 主な渇水実績 渇水実績：平成6年、平成14年等夏期においてはしばしば深刻な水不足に見舞われている。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標：水害等災害による被害の軽減 施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数：9.3戸 年平均浸水軽減面積：2.3ha									
事業全体の投資効 率性	基準年度		平成23年度							
	B:総便益 (億円)	71	C:総費用(億円)	51	B/C	1.4	B-C	20	EIRR (%)	9.8
事業の効 果等	<ul style="list-style-type: none"> 洪水調節：ダム地点の計画高水流量33m³/sのうち、24m³/sの洪水調節を行う。 流水の正常な機能の維持：大谷川沿川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。 水道用水：新見市に対して新たに1日最大1,155m³の水道用水の取水を可能にする。 									
社会経済 情勢等 の変化、事 業の進捗 状況(検証 対象ダム 事業等の 点検)	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年現在、大谷川下流部に位置する哲西町の人口は約3千人で人口は減少傾向にある。 大谷川流域では、近年でも平成14年等夏期においてはしばしば深刻な水不足に見舞われている。 大谷川の治水計画における河川整備基本方針相当の計画規模は、氾濫区域内人口、資産、公共施設の設置状況等考慮し1/50としている。今回の検討では、実施要領細目に基づき、河道改修については河川整備計画目標の1/10を基本として検討を行った。 平成14年度 建設事業着手 平成19年度 高梁川水系河川整備基本方針策定(H19.8) 平成19年度 工事用道路工事着手 平成21年度 高梁川水系中上流ブロック河川整備計画策定(H21.4) 平成21年度 付替道路工事着手 平成21年12月 新たな基準に沿った検証の対象とする事業に選定 現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約18%（事業費ベース） <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム事業の計画規模について、氾濫区域内の公共施設の設置状況等の変化を踏まえて点検した結果、1/50から1/30と変更した。 事業費及び工期の点検については、平成21年4月に策定した全体計画の事業費、工期を基に、30年確率規模に対応する事業費、工期について最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については約2億円の減、工期については平成30年完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 									
事業の進 捗の見込 み、コスト 縮減や代 替案立案 等の可能 性	<p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、3案の治水対策案を立案した。 大谷川生活貯水池＋堤防嵩上げ 河道掘削 堤防嵩上げ 7つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、堤防嵩上げ案が優位と評価した。 <p>「新規利水」</p> <ul style="list-style-type: none"> 利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思があること、開発量として変更がないことを確認した。 検討主体において、必要量の算出が妥当に行われていることを確認した。 利水参画者に対して確認した必要な開発量を確保することを基本として、3案の利水対策案を立案した。 大谷川生活貯水池 河道外貯留施設 水系間導水 6つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、大谷川生活貯水池案が優位と評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、2案の対策案を立案した。 大谷川生活貯水池 河道外貯留施設 6つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、大谷川生活貯水池案が優位と評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 目的別の総合評価の結果、治水対策案は堤防嵩上げ案が優位、利水対策案、流水の正常な機能の維持対策案は大谷川生活貯水池案が優位と評価したが、総合的な評価として、治水と利水を目的としたダム(案)とダムを建設しない場合の対策案のコスト比較等を実施し、大谷川生活貯水池を中止と評価した。 									

対応方針	中止(平成23年度をもって補助金交付を中止)
対応方針理由	<p>今後の治水対策のあり方に関する有識者会議のご意見を踏まえ、検討内容は、基本的に、「中間とりまとめ」(※1)の共通的な考え方に沿って検討されていると認められる。目的別の総合評価の結果は、治水対策案は堤防嵩上げ案が優位、利水対策案、流水の正常な機能の維持対策案は大谷川生活貯水池案が優位と評価したが、総合的に「中止」と評価した検討主体の対応方針は妥当であると考えられる。よって、補助金交付に係る対応方針については「中止」とする。</p>
その他	<p>※1:「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」(平成22年9月 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議)</p> <p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の対象となるダム事業の対応方針の原案を作成し、「岡山県事業評価監視委員会」への意見聴取を行い、対応方針を決定した。 <p><情報公開、意見聴取等の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討過程において、「大谷川ダム検討会議」を公開するなど情報公開を行った。 ・学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者への意見聴取を行った。

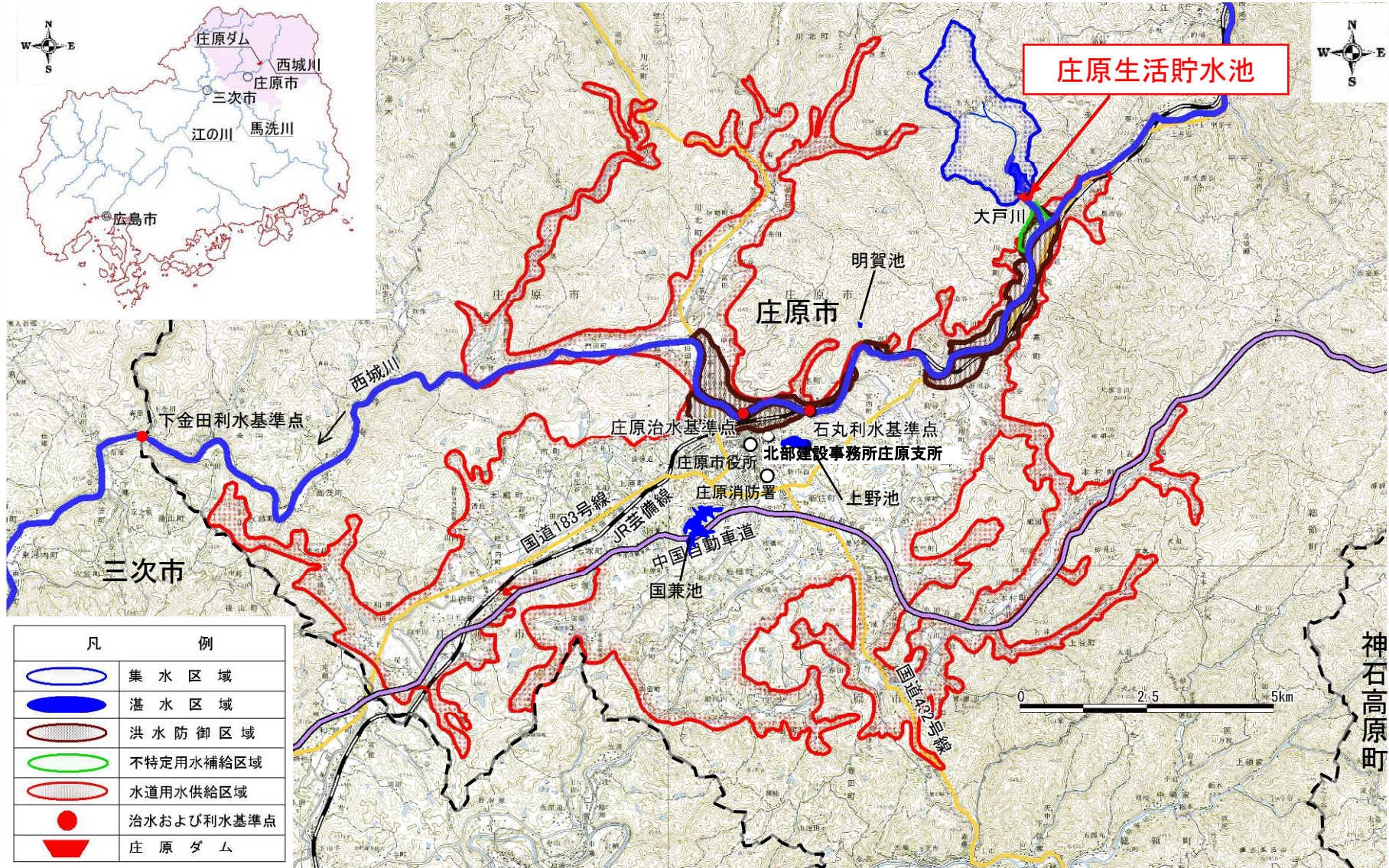
大谷川ダム位置図



事業名 (箇所名)	庄原生活貯水池整備事業	担当課	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	広島県					
実施箇所	広島県庄原市									
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
事業諸元	重力式コンクリートダム、ダム高42.0m、堤体積42.4千m ³ 、総貯水容量701千m ³									
事業期間	平成12年度建設事業着手									
総事業費 (億円)	約60	残事業費(億円)	約35							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戸川と西城川では、近年でも平成10年、平成18年、平成22年に被害の大きな洪水が発生している。 主な洪水実績：S47.7:全半壊46戸、床上浸水144戸、床下浸水563戸(西城川全川) 主な洪水実績：H5.7:床下浸水9戸(庄原市高町) 主な洪水実績：H10.10:床上浸水3戸、床下浸水5戸(庄原市高町、柳原、高茂町) 主な洪水実績：H18.7:床下浸水7戸(庄原市高町、柳原) 主な洪水実績：H22.7:全半壊3戸、床上浸水2戸、床下浸水3戸(庄原市上川西) ・主な濁水実績 濁水実績：H3.11~H4.1 大口需要者最大60%、一般最大40%の減圧給水 濁水実績：H4.6~8 大口需要者最大30%、一般最大50%の減圧給水 濁水実績：H6.7~H7.1 大口需要者最大30%、一般最大50%の減圧給水 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標：水害等災害による被害の軽減 ・施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数：14戸 年平均浸水軽減面積：2.5ha									
事業全体の投資効率性	基準年度 B:総便益 (億円)	63	平成23年度 C:総費用(億円)	60	B/C	1.1	B-C	3.4	EIRR (%)	4.5
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節：ダム地点の計画高水流量23m³/sのうち、19m³/sの洪水調節を行う。 ・流水の正常な機能の維持：大戸川沿川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。 ・水道用水：庄原市に対して新たに1日最大4.150m³の水道用水の取水を可能にする。 									
社会経済情勢等の変化、事業の進捗状況(検証対象ダム事業等の点検)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年現在、大戸川流域を含む庄原市の人口は約43千人で、人口は減少傾向にある。 ・西城川では、近年でも平成6年をはじめとして減圧給水が行われている。 平成12年度 建設事業着手 平成14年度 一級河川江の川水系西城川・神野瀬川ブロック河川整備計画策定(H14.12) 平成19年度 補償基準妥結 平成19年度 付替道路工事着手 平成19年度 一級河川江の川水系西城川・神野瀬川ブロック河川整備計画変更(H20.2) 平成21年12月 新たな基準に沿った検証の対象とする事業に選定 現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約42%(事業費ベース) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費及び工期の点検については、平成19年11月に策定した全体計画の事業費、工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費に変更がないこと、工期については平成27年度完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 									
事業の進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、10案の治水対策案を立案した。 庄原生活貯水池＋引堤 遊水地＋引堤 放水路＋引堤 引堤 堤防かさ上げ 引堤＋掘削 河床掘削 引堤＋輪中堤 堤防かさ上げ＋輪中堤 河床掘削＋輪中堤 <ul style="list-style-type: none"> ・7つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、庄原生活貯水池＋引堤案が優位と評価した。 <p>「新規利水」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思があること、開発量として変更がないことを確認した。 ・検討主体において、必要量の算出が妥当に行われていることを確認した。 ・利水参画者に対して確認した必要な開発量を確保することを基本として、5案の利水対策案を立案した。 庄原生活貯水池 水道用水単独ダム 河道外貯留施設 明賀池再開発 既設ため池活用 <ul style="list-style-type: none"> ・6つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、庄原生活貯水池案が優位と評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、3案の対策案を立案した。 庄原生活貯水池 不特定単独ダム 河道外貯留施設 <ul style="list-style-type: none"> ・6つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、庄原生活貯水池案が優位と評価した。 									

	<p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 ・目的別の総合評価の結果が、全ての目的で庄原生活貯水池案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は庄原生活貯水池案が優位と評価した。
対応方針	継続(補助金交付を継続)
対応方針理由	<p>今後の治水対策のあり方に関する有識者会議のご意見を踏まえ、検討内容は、基本的に、「中間とりまとめ」(※1)の共通的な考え方に沿って検討されていると認められる。目的別の総合評価の結果が、全ての目的で現計画案(庄原生活貯水池案)が優位であり、総合的な評価として、現計画案(庄原生活貯水池案)が優位としている検討主体の対応方針「継続」は妥当であると考えられる。よって、補助金交付に係る対応方針については「継続」とする。</p> <p>※1:「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」(平成22年9月 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議)</p>
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の対象となるダム事業の対応方針の原案を作成し、「広島県事業評価監視委員会」への意見聴取を行い、対応方針を決定した。 <p><情報公開、意見聴取等の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討過程において、「庄原ダム検討委員会」を公開するなど情報公開を行った。 ・学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者への意見聴取を行った。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の治水のあり方に関する有識者会議でのご指摘を踏まえ、庄原生活貯水池における土砂流出に関し、どのようなモニタリングを行うかについて、目的、内容、モニタリング結果を踏まえた対応について、改めて広島県に確認したところ「庄原生活貯水池上流域においては、平成22年7月に局地的豪雨が発生し、大規模な土石流が発生した。この豪雨対策として、河川等に流出した土砂の撤去や、崩壊地からの土砂流出抑制のための砂防・治山ダム8基の整備を進めている。今回の検証においては、近傍類似ダムの最新データの追加点検と併せて平成22年豪雨による影響及び砂防・治山ダムの整備効果を考慮し、庄原生活貯水池の堆砂量の点検を行った結果、計画堆砂量と同程度であることを確認した。今後、発生した崩壊地の復元状況、砂防・治山ダムに堆積する土砂量、砂防・治山ダムから下流に流出する土砂量について観測し、庄原生活貯水池に流入・堆積する土砂量等を確認するためのモニタリングを実施し、状況に応じて堆積土砂の撤去を含む維持管理の充実など適切な対応を行う」旨回答を得ている。

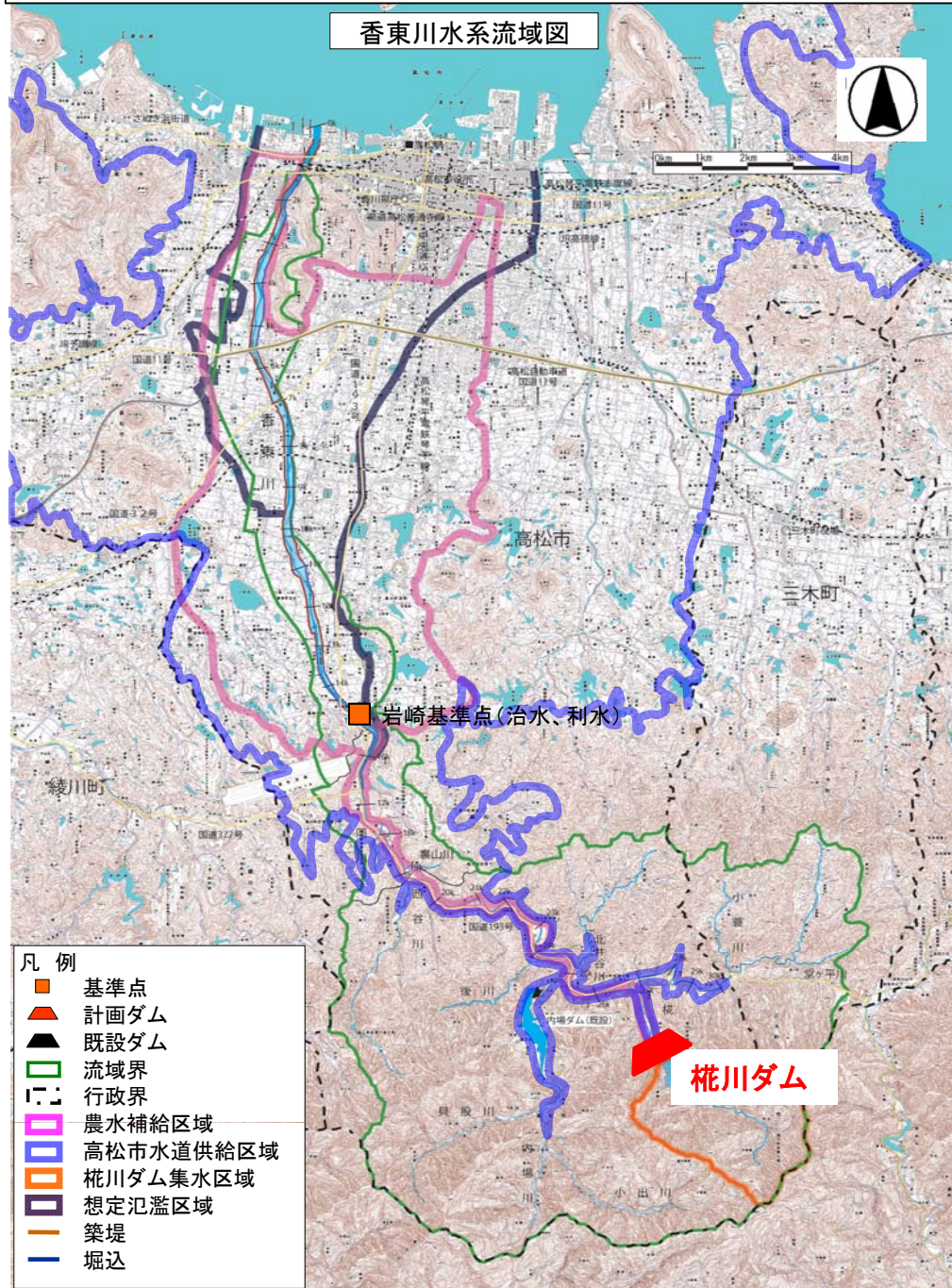
庄原生活貯水池位置図



事業名 (箇所名)	栴川ダム建設事業	担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課 森北 佳昭	事業 主体	香川県
実施箇所	香川県高松市				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業				
事業諸元	重力式コンクリートダム、ダム高88.5m、堤体積420千m ³ 、総貯水容量10,560千m ³				
事業期間	平成6年度実施計画調査着手／平成8年度建設事業着手				
総事業費 (億円)	約385	残事業費(億円)	約322		
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 香東川では、近年でも平成2年、平成10年、平成16年に被害の大きな洪水が発生している。 主な洪水実績：S50.8:床上浸水13戸、床下浸水34戸 主な洪水実績：H2.9:床上浸水2戸、床下浸水32戸 主な洪水実績：H10.9:床上浸水4戸、床下浸水31戸 主な洪水実績：H16.10:床上浸水1戸、床下浸水10戸 主な渇水実績 渇水実績:H2.8 断水(夜間7時間)5日間、減圧給水20日間 渇水実績:H6.6~11 断水(最大19時間)67日間、減圧給水139日間 渇水実績:H17.6~9 断水(夜間9時間)3日間、減圧給水78日間 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標：水害等災害による被害の軽減 施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する 				
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数:53戸 年平均浸水軽減面積:3.5ha				
事業全体の投資効率性	基準年度	平成23年度			
	B:総便益(億円)	923	C:総費用(億円)	329	B/C 2.8 B-C 595 EIRR(%) 21.0
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 洪水調節：ダム地点の計画高水流量190m³/sのうち、120m³/sの洪水調節を行う。 流水の正常な機能の維持：栴川ダム下流の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。また、異常渇水時に備え渇水対策容量336万m³を確保し、計画規模を超える渇水に対しても必要最低限の既得用水や河川維持流量を確保するために緊急水の補給を行い渇水被害の軽減を図る。 水道用水：高松市に対して新たに1日最大9,000m³の水道用水の取水を可能にする。 				
社会経済情勢等の変化、事業の進捗状況(検証対象ダム事業等の点検)	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年現在、流域の高松市(平成17年に塩江町、平成18年に牟礼町、庵治町、香川町、香南町、国分寺町と合併)の人口は約419千人で、人口は増加傾向にある。 香東川流域においては、近年でも平成2年、平成6年、平成17年などにおいて断水及び減圧給水が行われている。 平成6年度 実施計画調査に着手 平成8年度 建設事業に着手 平成13年度 香東川水系河川整備基本方針策定(H13.5) 平成15年度 香東川水系河川整備計画策定(H15.12) 平成15年度 補償基準妥結 平成17年度 工事用道路工事、付替道路工事着手 平成21年12月 新たな基準に沿った検証の対象とする事業に選定 現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約14%(事業費ベース) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業費及び工期の点検については、平成21年9月に変更した計画の事業費及び工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については約95億円の減、工期については概ね6年後完成見込であることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 				
事業の進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、3案の治水対策案を立案した。 栴川ダム＋河道掘削 支障橋梁架替＋河道掘削 引堤 7つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、栴川ダム＋河道掘削案が優位と評価した。 <p>「新規利水」</p> <ul style="list-style-type: none"> 利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思があること、開発量として変更がないことを確認した。 検討主体において、必要量の算出が妥当に行われていることを確認した。 利水参画者に対して確認した必要な開発量を確保することを基本として、3案の利水対策案を立案した。 栴川ダム ため池 海水淡水化 6つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、栴川ダム案が優位と評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、3案の対策案を立案した。 栴川ダム ため池 海水淡水化 6つの評価軸について評価した。 各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、栴川ダム案が優位と評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 目的別の総合評価の結果が、全ての目的で栴川ダム案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は栴川ダム案が優位と評価した。 				

対応方針	継続(補助金交付を継続)
対応方針理由	<p>今後の治水対策のあり方に関する有識者会議のご意見を踏まえ、検討内容は、基本的に、「中間とりまとめ」(※1)の共通的な考え方に沿って検討されていると認められる。目的別の総合評価の結果が、全ての目的で現計画案(栴川ダム案)が優位であり、総合的な評価として、現計画案(栴川ダム案)が優位としている検討主体の対応方針「継続」は妥当であると考えられる。よって、補助金交付に係る対応方針については「継続」とする。</p> <p>※1:「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」(平成22年9月 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議)</p>
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の対象となるダム事業の対応方針の原案を作成し、「香川県公共事業再評価委員会」への意見聴取を行い、対応方針を決定した。 <p><情報公開、意見聴取等の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討過程において、「香川県ダム検証に係る検討委員会」を公開するなど情報公開を行った。 ・学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者への意見聴取を行った。

栂川ダム位置図



事業名 (箇所名)	春遠生活貯水池整備事業	担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課 森北 佳昭	事業 主体	高知県					
実施箇所	高知県幡多郡大月町									
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
事業諸元	重力式コンクリートダム、ダム高33.0m、堤体積21.4千 ³ m、総貯水容量770千 ³ m									
事業期間	平成6年度建設事業着手									
総事業費 (億円)	約65	残事業費(億円)	約46							
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝ノ川流域では、近年でも平成13年に被害の大きな洪水が発生している。 主な洪水実績:S55.8:床下浸水5戸 主な洪水実績:H13.9:全壊流出家屋4戸、半壊家屋44戸、床上浸水12戸、床下浸水52戸 主な濁水実績 濁水実績:H元.8 1日7時間断水14日間 濁水実績:H6.7 1日9時間断水9日間 濁水実績:H7.9 1日18時間断水14日間 濁水実績:H8.1 1日18時間断水14日間 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標:水害等災害による被害の軽減 ・施策目標:水害・土砂災害の防止・減災を推進する 									
便益の主な根拠	年平均浸水軽減戸数:4.5戸 年平均浸水軽減面積:14ha									
事業全体の投資効率性	基準年度	平成23年度								
	B:総便益 (億円)	166	C:総費用(億円)	79	B/C	2.1	B-C	86	EIRR (%)	12.5
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節:ダム地点の計画高水流量30m³/sのうち、27m³/sの洪水調節を行う。 ・流水の正常な機能の維持:家ノ谷川及び貝ノ川沿川の既得用水の補給等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。 ・水道用水:大月町に対して新たに1日最大660m³の水道用水の取水を可能にする。 									
社会経済情勢等の変化、事業の進捗状況(検証対象ダム事業等の点検)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度5月現在、貝ノ川流域の人口は、大月町119人、土佐清水市240人で、人口は減少傾向にある。 ・大月町の水道は、近年でも平成8年をはじめとして時間断水や取水制限が行われている。 平成 6年度 建設事業着手 平成13年度～ 用地買収、付替道路工事、工用道路工事等を実施 平成21年12月 新たな基準に沿った検証の対象とする事業に選定 現在、生活再建工事中であり、平成23年3月現在で進捗率は約28%(事業費ベース) <p>【検証対象ダム事業等の点検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費及び工期の点検については、平成20年の事業再評価で示した事業費及び工期を基に、最新のデータ等で点検を行った結果、事業費については約1.5億円の減、工期についてはダム本体工事発注後約3年間で完成見込みであることを確認した。また、堆砂計画、過去の洪水実績など計画の前提となっているデータ等を点検した。 									
事業の進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>【目的別の検討】</p> <p>「洪水調節」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画(案)において想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、河川を中心とした対策に加えて流域を中心とした対策を含めて治水対策案を検討し、5案の治水対策案を立案した。 春遠生活貯水池+引堤 遊水地(貝ノ川)+輪中堤 放水路(貝ノ川)+輪中堤 輪中堤(春遠・藤ノ川地区)+引堤 引堤 <ul style="list-style-type: none"> ・7つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、春遠生活貯水池+引堤案が優位と評価した。 <p>「新規利水」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利水参画者に対し、ダム事業参画継続の意思があること、開発量として変更がないことを確認した。 ・検討主体において、必要量の算出が妥当に行われていることを確認した。 ・利水参画者に対して確認した必要な開発量を確保することを基本として、2案の利水対策案を立案した。 春遠生活貯水池 ため池 <ul style="list-style-type: none"> ・6つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、春遠生活貯水池案が優位と評価した。 <p>「流水の正常な機能の維持」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画(案)で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、2案の対策案を立案した。 春遠生活貯水池 ため池 <ul style="list-style-type: none"> ・6つの評価軸について評価した。 ・各評価軸についての評価を行った上で、目的別の総合評価を実施した結果、春遠生活貯水池案が優位と評価した。 <p>【検証対象ダムの総合的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を実施した。 ・目的別の総合評価の結果が、全ての目的で春遠生活貯水池案が優位であり、検証対象ダムの総合的な評価は春遠生活貯水池案が優位と評価した。 									

対応方針	継続(補助金交付を継続)
対応方針理由	<p>今後の治水対策のあり方に関する有識者会議のご意見を踏まえ、検討内容は、基本的に、「中間とりまとめ」(※1)の共通的な考え方に沿って検討されていると認められる。目的別の総合評価の結果が、全ての目的で現計画案(春遠生活貯水池案)が優位であり、総合的な評価として、現計画案(春遠生活貯水池案)が優位としている検討主体の対応方針「継続」は妥当であると考えられる。よって、補助金交付に係る対応方針については「継続」とする。</p> <p>※1:「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」(平成22年9月 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議)</p>
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証の対象となるダム事業の対応方針の原案を作成し、「高知県公共事業再評価委員会」への意見聴取を行い、対応方針を決定した。 <p><情報公開、意見聴取等の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討過程において、「春遠ダム検討会議」を公開するなど情報公開を行った。 ・学識経験を有する者、関係住民、関係地方公共団体の長への意見聴取を行った。

春遠生活貯水池位置図

